

第四回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：瑠璃

【日時】

10月12日(水) 19:00~21:00

【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：中間報告に向けて

ステップ2：グループディスカッション
(教育について)

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【前回までの話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回までの話し合いの内容確認、中間発表までのスケジュールの確認がなされた。

ステップ2：グループディスカッション（教育について）

前回までの話し合いで議論されていなかったテーマのひとつである「教育」について話し合うこととした。

【現状】

- ・ 荒川区では小学校、中学校で越境入学、通学が多く行われている。住民票を移すだけにとどまらず、場合によっては子どもと一方の保護者が実際の住居を移してまで近隣の区への越境をする。
- ・ 少なくとも30年ほど前から、区外の学校への越境はあった。
- ・ 荒川からの越境が多い小学校は5~6割が荒川区の子どもたちで占めている場合もあった。学習レベルは高く、成績は公表されて子どもたちは競争心を持って勉強をしている。
- ・ 1、2年前から荒川区の小学校では、毎年学力テストを行い、その結果を学校名入りで公表している。
- ・ 荒川区は、小学校・中学校一貫の英語教育の特区に認定されている。
- ・ 私立学校は公立学校と比べて、一般的に先生の質、面倒見が良い。
- ・ 私立中学受験の割合が、東京都において1/6人程度の割合である。

【特色、現状の課題】

- ・ 以前は学区制があり、同じ区立でも、近隣区の学区の方が学力のランクが上だった。そのため

越境入学があったが、学区がなくなった今でもその名残で越境が行われている。

- ・ 近隣某区は学力のレベルにおいても、通っている子どもたちの家庭環境のレベルにおいても、荒川区と比べ水準が高い。そのため、少しでもより良い環境を求める親たちが越境をさせている。また、それだけでなく先生の質も高い。
- ・ 近隣某区の小学校は2学期中に教科書を終了し、後は先生独自の教材で学習するのでレベルが高いという。親は高校、大学への進学を見据えた小学校、中学校選びをするため学力レベルの高い他区の学校へ越境させているのではないか。中学から越境させてもついていけないかもしれない、ならば小学校から入学させようということになる。
- ・ 他国籍の子どもたちの多い学校では、日本語習得レベルの違いから、進度も遅くなる傾向がある。
- ・ 荒川区の小学校、中学校に指導に行った経験があるが、荒れていてまったくまとまりがなかった。人の話は全く聞かず、先生の注意も聞かない、話を聞くようにと注意したら生徒が教室から出て行ってしまうという状況だった。
- ・ 英語教育の特区をとることよりも先生の質の改善など、先にやることがあるのではないかと、思ってしまう。
- ・ 学校はコミュニティの核である。荒川区は越境通学が多いため、区内の学校に無関係の人が多く住んでいる。いざ何か緊急事態が起きたときを考えると、学校を介さないコミュニティが存在しなければいけなくなる、という問題を生みだしているのではないか。
- ・ このまま手をこまねていては、区内の学校がスラム化してしまうのではないか。余裕のある人が区外や私立へ子どもを通わせてしまえば、残るのはそれ以外の人ということになる。荒川区の場合は30、40年前から越境入学者が多く、今後はこの傾向が顕著になってしまうのではという懸念がある。
- ・ 学校個々で取り組みをし、特色を出していくのではなく、「荒川区」でのブランド化が進まないと、区外流出が進んでしまう。学校での区外流出が進めば、それ以外のところでも人材の流出が起きていくだろう。

【現状に対する疑問点】

- ・ 小学校での学力テスト結果の公表は、いったいその後どうなったのかがわからない。父兄が子どもの学校を選ぶ基準のひとつとして見ている可能性はあるだろうが、具体的にその結果を誰がどう参考にしているのか疑問である。この効果のほどはどこにでているのだろうか。
- ・ 公立小・中学校の先生の異動について、足立区との行き来は聞いたことがあるが、文京区との行き来は聞いたことがない気がする。
- ・ 学校側は子どもたちの区外流出に対して、どう考えているのか。1学年1クラスでも生徒が集まればそれでよし、と思っているのだろうか。今後、区立学校は少子化の中でどうしていくのかを考えていなくてはならないのではないか。

【目指す方向・こうなって欲しい姿】

- ・ 自分の子どもは、できれば越境ではなく区内の小学校に入れさせたい、という地元志向の気

持ちが大いにある。環境と教育内容に関して、希望がかなう学校を区内につくれば越境も減るのではないか。

- ・ すべての人が区内の小中学校に通うようになればよい、という話にはならない。あくまで公立校は行政による「最低限の保障」である。それより上を望むかどうかは個々の選択に委ねられている。よって、学力の向上というようなレベルアップを目指すことよりも、先生の面倒見の良さ、部活動の活発さといったソフト面に力を入れ、さらにそれをうまくアピールしていったら良いのではないか。
- ・ 区内の学校の中にも、地域の特性があってもいいのではないか。
- ・ 良い先生に来てもらえるように、公平に教職員が都内を循環する制度にしたら良い。
- ・ 公立学校は、人間形成や、個性を伸ばすことに力をいれていく方向で努力していったら良いのではないか。
- ・ 親たちが学校の情報集めをするように、学校も区も、親たちが何を欲しているのかという情報を知るべきだ。そして、そういう情報を学校や行政が発信していったら良い。
- ・ 品川区のように、学校教育における独自路線を打ち出せたら良い。

【実現への課題】

- ・ 荒川区の教育には魅力がないというが、一方で何を持って魅力とするのかという問題がある。また、そのために特色となるようなものを打ち出していかなくてはいけないだろうが、これを考えていくことは難しい。
- ・ 特色として英語教育の特区があるが、実際は学力の向上には結びついていない。情操教育や早期教育のひとつ程度になっているため、魅力にならない。
- ・ 政策で越境を禁じてしまったら、家族丸ごと区外へ引っ越してしまうだろうから、それはできないだろう。
- ・ 昔は単純に近所の学校へ通わせていただろうが、今は情報も多く選択の時代になっている。親たちはより良いところへ通わせたいと思っているのだから、選択される側 = 学校側が努力していくという価値観の転換が必要である。特色を出す努力をしていかなくてはいけないのではないか。
- ・ 先生方にとっても魅力ある教育体制がないと良い先生は来ないのではないか。
- ・ 私立学校に教育について思想を持っている。こういうことを公立学校が打ち出していくのは難しいのではないか。
- ・ 他国籍の子ども達が多く通う学校やその地域について、国際化の最前線として前向きに捉えることができないのか。

ステップ3：中間報告に向けて

コンサルタントより、中間発表用資料（たたき台）が配布され、その説明が行われた。目指す荒川区の姿としてキャッチコピーを考え、それを実現するためにどういうことをしていったら良いかを発表していくことが提案され、了承を得た。

【発表テーマについて】

- ・ ひとつだけテーマとなる分野を取り出し、それを主題としたらどうか。そのテーマは、他の分野の議論にも共通するようなものを選ぶようにする。そうすると他のグループにはない、切れ味のあるものになるのではないか。
- ・ 分野別に議論をまとめていき、そこからキャッチコピーを考え出せば理想的である。
- ・ 今までの提言になく、お役所的でないテーマにしたい。
- ・ 区外の人が見てもハッとするようなキャッチコピーにできたらよい。
- ・ 「まちづくり」というテーマにすれば、これはすべての土台となる分野なので全体を網羅できるのではないか。

キャッチコピーや発表の中心となるテーマについて、区内に向けて発信するようなものにしたらいいか、区外に向けて発信するようなものにしたらいいか、という議論になった。

【区内に向けた発信】

- ・ すべてを行政に助けてもらう、という意識から、区民ひとりひとりが参加して意思を持っていけば確実に変わっていくんだ、という意識改革を求めていくようなテーマにしたい。
- ・ 区民に対して啓発的なテーマが良い。
- ・ 荒川区の地域性や歴史を考えて「粋でありたい」ということがテーマとして出てくるのではないか。「貧乏はしてもいやしくなりたくない」という、品性のある見栄を区民に向けたメッセージにできたらよいと思う。
- ・ 10月9日に行われた総合震災訓練で、区のことは自分たちでやっていかなくてはいけない、自分たちが区政の主役なんだという気づきがあった。荒川区民の気質として「頼まれたら断れない」というのがあると思うが、「自分たちが主役」という気づきはその気質にうまくマッチすれば、区としていい方向に進むのではないか。

【区外に向けた発信】

- ・ 荒川は奥ゆかしさのある、本当の意味での下町ではないかと思うので、そういうことをテーマにしたらいいのではないか。
- ・ Web検索で、福祉でも教育でも、なにか1つでも、その分野において荒川区がトップにでてくるくらいのことが行政においてできたらいいな、と思う。
- ・ 荒川区は、助け合いやコミュニティがあって、高齢者をひとり家においておいても安心できるまちである。こういうことを区外にアピールできたらよいのではないか。

ステップ4：その他

【次回について】

今回は中間発表に向けて、今日の話し合いをさらに深めていくこととした。そのために、各自がキャッチコピーか、これまでの議論の結論を考えてくることとした。

日程は、11月9日(水) 19:00より。